

沿岸観光地における市街地形成の変遷に関する研究 ～南知多町内海地区を事例として～

愛知工業大学 学生会員 ○石塚 えり奈 愛知工業大学 非会員 橋本 操
愛知工業大学 正会員 小池 則満 愛知県立大学 非会員 服部 亜由未

1. はじめに

沿岸部における津波や高潮の被害に対して、高台移転などを含んだ市街地形成について議論されている。これを受けて、沿岸部の市街地形成を国土地理院地図から読み取って変遷を論じた研究などがある¹⁾。しかしながら、より海岸沿いに市街地が形成されやすいと考えられる沿岸観光地を対象に、その特徴も踏まえて市街地形成について議論した研究は見当たらない。

そこで本研究では、愛知県知多郡南知多町内海地区を取り上げ、明治から平成までの市街地の変遷について把握する。そして、南海トラフ地震の被害想定を勘案し、今後の災害に対する市街地整備に向けた課題を見いだすことを目的とする。

2. 分析方法

2.1 分析対象地域

本研究の対象地域である南知多町内海地区は、江戸期より海水浴場として栄えており、そのにぎわいは明治 41 (1908) 年に発行された絵図にも示されている²⁾。海水浴客を対象とする建物が建ち並び、名古屋近郊の観光地として地位を確立している様子がわかる。現在も、内海地区は年間 55 万人の観光客が訪れる主要な愛知県の観光地の一つである。災害履歴としては、昭和 19 (1944) 年の東南海地震における津波が到達している可能性あるが、町誌等はその記載はない³⁾。一方で、台風時の高潮の被害については、堤防の決壊や浸水の記載が町誌にある。特に、昭和 28 (1953) 年の十三号台風や昭和 34 (1959) 年の伊勢湾台風、昭和 49 (1974) 年の集中豪雨によって被災しており、その際の浸水深が町の各所に看板によって示されている。

2.2 土地利用変化の分析

本研究では、表-1 に示す国土地理院の発行して

表-1 使用した旧版地形図および国土地理院地図

年代	図名	発行年	縮尺
明治期	内海村	明治 26 年	1/2 万
大正期	内海	大正 10 年	1/2.5 万
	師崎	大正 9 年	1/2.5 万
昭和前期	内海	昭和 22 年	1/2.5 万
	師崎	昭和 22 年	1/2.5 万
昭和中期	内海	昭和 36 年	1/2.5 万
	師崎	昭和 37 年	1/2.5 万
平成初期	内海	平成元年	1/2.5 万
	師崎	平成元年	1/2.5 万
現在	師崎	平成 26 年	1/2.5 万

いる地形図を使用する。

これらの市街地形成の変遷について、住宅、墓地、農地、森林（果樹園含む）、川、湖、浜、その他により分類を行った。地図記号の中で、果樹園は森林に含んだ。区画内に二つの記号がある場合、記号に沿って分けることとした。その面積と分布から、市街地の変遷と形成との関連性をみた。

3. 分析結果および考察

図-1 から図-4 は明治 26 年、大正 9 年、昭和 37 年、平成 26 年の土地利用の区分けをした地図である。まず、明治 26 年の図-1 においては、内海川の河口付近に市街地が形成されており、吹越などでは水田が広がっている。大正に入ると、図-2 にみられるように道路が整備され始めた様子が見てとれるが、市街地の場所や大きさに大きな変化はみられない。昭和に入ると、図-3 に示す通り、海岸沿いに主要道が完成し、道路の整備もされ、海岸沿いに市街地が広がっている。昭和 55 (1980) 年に内陸側に開業した名古屋鉄道知多新線内海駅の影響により、平成に入ると、図-4 の右上の駅付近に市街地が形成されている。また、過去に水田であった地区中央付近も新たな道路が通り、市街地化している。海岸付近

にあった中学校は内陸部に移転し、内海高校も対象エリア外の内陸側に移転しており、高潮や津波に対するリスクは相対的に低下しているといえる。

土地利用図より、水田であった地区の中央付近の住宅化が進んでいると同時に沿岸部の市街地に変化がないことが読み取れる。これは南知多町の都市計画において、海岸沿いが商業地域に設定され、内陸部が住居系用途地域とされているのも要因と考えられる。以上のように、明治以降海岸沿いににぎわいが創出され、内陸地に住宅が徐々に展開していく様子は、都市計画の現状と相まって、海水浴場を中心とした観光地としての地域的な特徴を顕著に示しているといえる。一方で、災害に対する脆弱性はどう対処していくべきか課題である。

4. 今後の課題

本研究では、内海地区の明治から平成の土地利用の変化から市街地の変遷について明らかにした。そして、市街地の変遷から災害に対する脆弱性について考察した。今後は、南海トラフ地震の被害想定との関連性をより詳細に分析し、防災対策や検討すべき対策の基本方針を検討していく予定である。

参考文献

- 1) 松浦健治郎：都市計画過去の被災履歴から見た市街地形成の変遷に関する研究～三重県南部の沿岸部を対象として、都市計画論文集 Vol.51 No.31.
- 2) 尾張国知多郡内海海水浴真景絵図，明治 41 年，愛生堂.
- 3) 南知多町誌，平成 3 年.

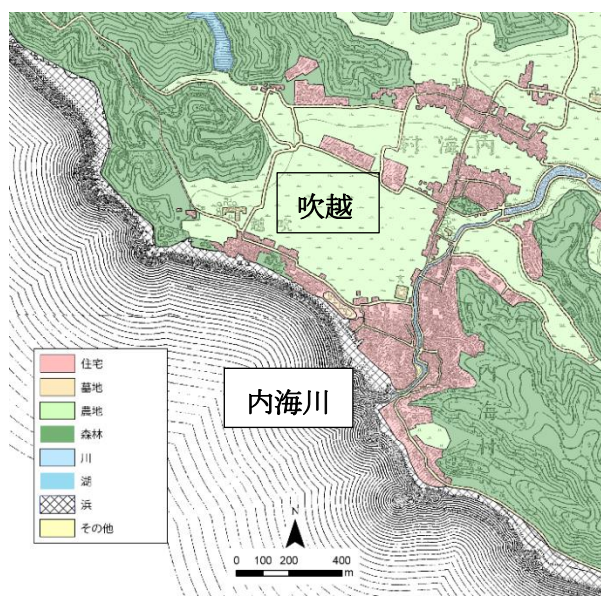


図-1 土地利用図(明治26年発行1/2万地形図より作成)

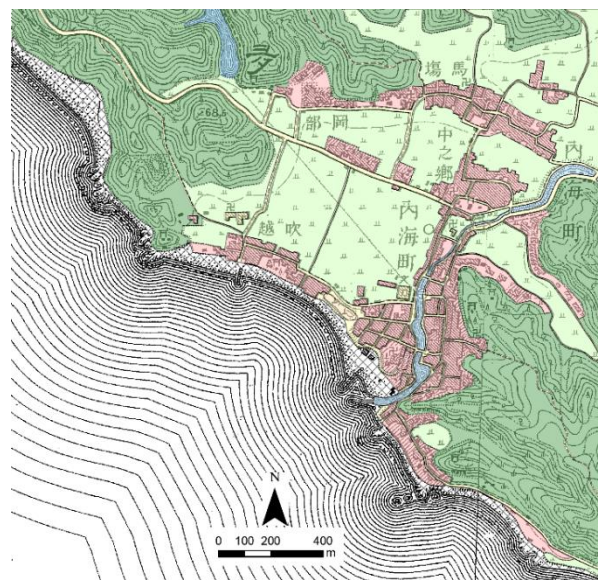


図-2 土地利用図(大正9年および大正10年発行1/2.5万地形図より作成)

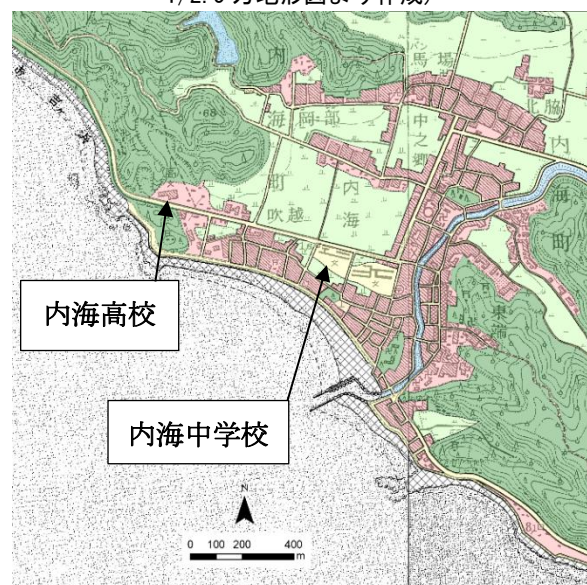


図-3 土地利用図(昭和36年および昭和37年発行1/2.5万地形図より作成)

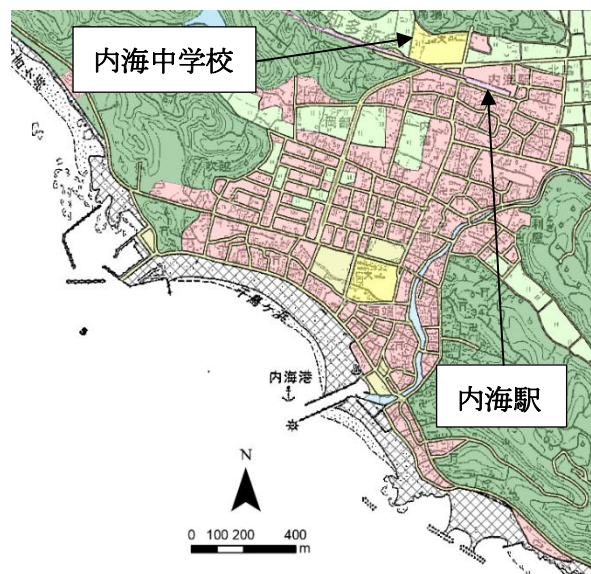


図-4 土地利用図(平成26年発行1/2.5万地形図より作成)